

## 第1回豊明市総合教育会議 会議録

日時：令和5年1月10日（火）午後2時00分～

場所：豊明市役所 新館4階 第1委員会室

### 構成員

市長 : 小浮 正典  
教育委員会 教育長 : 伏屋 一幸  
同 教育長職務代理者 : 長山 加代子  
同 委員 : 青木 睦  
同 委員 : 井戸 貴子  
同 委員 : 南 寿樹

### 事務局

行政経営部長 : 小串 真美  
秘書広報課長 : 馬場 千春  
秘書広報課長補佐 : 加藤 良子  
同課秘書担当 : 安藤 裕子

### 関係部局

教育部長 : 藤井 和久  
学校支援室長 : 小崎 真  
学校教育課長 : 高木 安司

(欠席者なし)

### 1 あいさつ

市長 今の教育の在り方としては、もう全て子ども起点で、学校教育も含めて生涯教育もやっていきたいと思っている。子どもにとって、幸せな空間、そういったものを学校はもちろん、文化施設であったり図書館であったりそういった学校以外のところも、子どもにとってすばらしい施設であってほしいと思う。当然ながら予算の制約はあるが、教育部門にも極力予算をつけたいと考えている。人の配置を必要な部分についても重点的にやっていきたいというふうに思っている。

教育長 教育委員には、10～11月に学校訪問だけでなく、コミュニティースクールの委員会や協同の学びの授業など、いろいろと学校を訪れていただく機会が多くて、本当にうれしく思っている。市長に特に学校の図書が非常に古いというようなことを申し上げたところ、当初の計画では4年間で再整備していこうということだったが、1年でやってほしいという要望があり、要求額の4倍の予算を認めていただいた。また、12月に開催した市長と話そう会で、栄中の子どもたちから図書室が狭いので何とかしてほしいという意見が出て、早急に対応するようという指示を出していただいた。困っているとか、こうなるといういなというようなことがあったら、お伝えしていただきたい。

市長 本日は傍聴希望がないため、引き続き進行します。

## 2 議 題

### (1) 教育委員会学校訪問に係る報告について

委員 学級の中に約6%は発達障害の人がいると言われている。学校訪問先の小学校の現場にて、1人の子が机を倒して担任が指導に当たっていたが、その間他の子どもたちは指導が終わるのを待っており、担任1人でどちらも何とかしなければならないという葛藤する気持ちがとてもよくわかり、ここにもう1人指導員がいたらと思った。特別支援学校などでは、他の教員と協力して支援が必要な子どもは教室とは違う部屋にてクールダウンをさせ精神的に落ち着かせて見守ることができ、他の子どもは安心して教育が受けられるようになっている学校もある。普通学級にも、発達障害の子がいる場合に対処ができるような、教員の複数配置をしていただきたい。

市長 インクルーシブ教育になっているため、子どもと保護者の方々の意向に沿って学校現場のほうも受け止めていかなければならないので、委員のおっしゃるとおりである。予算の問題もあるが、しっかりした方にサポートはついてもらわなきゃいけないと考えている。

教育長 今、11校で52人の特別支援教育の支援員という方を雇用しており、来年度は53人になる。校長先生から事前に必要な数をヒアリングしているが、こういう子がいるからその子のところに配置というようにはなかなか出来ていないのは事実である。支援学級につけ

て、余った支援員を配置している状況であり、1年生とか2年生などまだ学校のルールもあまりよく分かっていないような子どもたち向けに配置をしている。まだ不十分ではあるが、毎年毎年増やしている。先ほど委員がおっしゃられた発達障害の人の割合が6%いるというようなことでいくと、市内小中学校300人ほどいるということになる。そもそも1人で何人見ることができるとかというようなこともあるが、市長にも理解いただき、こちらのほうで要求すれば予算を通してもらっているというのが実情である。

支援室長 今年から特別支援教育指導員に来ていただいて特にそういった専門的な支援の在り方について、各学校困っているのも、そういったところも今年は補強しているところである。

委員 学校訪問にて感じたことは、小学校はとても活気があり、マスクをした状態で、様々に先生が工夫をされて、とても穏やかに前に進んでいっているという印象がとても強くあり、中学校のほうも大変教室が落ちついていて、学習に向かっているなど感じた。

フレンドひまわりについては、今子どもが、自分が過ごせる居場所としての役割が第一として考えてもらいたい。今までは学校に戻っていったら、それが成功のような形になっていたのがそうではないと思う。子どもは個々それぞれに様々な理由を抱えて、学校にはちょっと行けないけれども、フレンドひまわりに行くとても元気に過ごして前に向かっていく子たちがいるので、やはりその未来に向かえる希望がどこかにあるというのが、子どもたちにとっては大事だと思う。学校に戻ることが1番ではないよということを、まずたくさんの人に理解をしていただきたい。学校の先生にも多分学校に戻ってほしいという思いもあり、もちろん学校に戻るのがゴールという子もいる。その目標値もまた個々によって違うため、フレンドひまわりが保護者とその子の目標値を個々に聞いて、そこに対応できるようにすごく今は動いてくださっている。課題としては、北部は交通の便がよくないため、通うことを断念される方もいる。通える子たちも個々の事情により通える時間帯が違っていたりするため、それに合わせて何かをするのは難しいということはフレンドひまわりの先生方や保護者にはご理解いただいているが、何か案はないのかと思う。

栄小学校は児童クラブを校内に設置したことで、学校から長い列

で歩いて行くことがなくなり、子どもも保護者も安全に通えるようになったことと、保護者のお迎えの路上駐車が解消されてよかった。児童クラブとして、中央小学校と豊明小学校が現状、外部施設を使っているので、中央小とか豊明小もちょっとそういうことを考えていくと思うと場所がプールしかないのかな。あと二村台小学校のプールも、二村台小は駐車場がないという話が出ているので、そういうふうな活用を、優先順位を考えたときにその三校はちょっと優先順位が高いのかなというふうには感じた。

コミュニティースクール策定運営協議会にも参加したが、今やっと地域と一緒に学校と話をし、お互い何が出来るのか、地域としてはまだ今の学校ってどんな感じなのかを知っていく時間になっている。何かを始めるには少し時間がかかるかもしれないが、会議に出てみるととても地域の方と学校等が少しずつ理解を深めていける時間になっている。ゆっくり進んでいけたらいい。

市長 フレンドひまわりのところの交通の便の問題は、以前にお金をかけるだけで済むのであったら、タクシーを使えばいいんじゃないかという話が出たことがある。このときの議論では、フレンドひまわりにずっと通ってもいいんじゃないかとそういった認め方がまだ出来ておらず、極力、学校に戻る子は戻ったほうがいいという考え方を私たちも持っていた。私たちは、会社勤めに将来的になるから、集団活動に慣れてないと将来この子たちが困るだろうという認識があったが、今は働き方も自由であり、いろんな多様性があるため、委員がおっしゃったように自分も教育長もそれぞれにとってベストな選択であればそれでいいんじゃないかと思っている。タクシーを使うかどうかの議論をそれ以上進めなかったのは、タクシーが快適過ぎて学校に戻れない状態は望ましくないのではという議論をしたような覚えがある。また再度、子どもたちにとって結局ベストな選択肢は何かということは今一度議論したいと思う。

プールについては、中央小学校と豊明小学校の問題は認識しており、順番に解決していきたいと思っている。これを一気に解決しなかった理由としては、プールの事業を民間のスポーツ施設でやるように現在になっているが、民間のスポーツ施設がずっと営業することが前提となってしまう。ただ一方で大府市と東浦町の間に東部知多衛生組合という、自分たち豊明市も参加している組合が運営しているプールがあって、大府市は一部、小学校の水泳運動指導をそこで行って

いるので、仮に民間事業者がこれ以上受け入れられないとなっても、東部知多衛生組合で受け止められると考えている。プールを順番になくしていても、大きな問題が生じなくなっているため、中央小学校と豊明小学校も解決に向かっていきたいと思っている。

学校運営協議会については、委員のおっしゃるとおりで、地域の方々が学校をサポートするだけではなくて、地域の方々も学校という大きな施設をうまく活用できるように、お互いウィン・ウィンになれる状態で、お互い支え合える状態になるととてもいいコミュニケーションになっていくのかなと思っている。本当にお互いを理解していただくことが1番重要ではないかと思う。

教育長 不登校のことについてある学校の子どもが給食委員で給食を早く食べないといけないのも嫌で、給食の時間に放送しないといけないのも嫌で、だんだん学校に行けなくなっているという話を聞き、そういう子に寄り添うにはどうしたらいいのだろうか。みんなの前で放送できるようにもなってほしいけれど、それが嫌で学校に行けなかったら元も子もないなとも思った。不登校の理由は本当に千差万別なので、ひとくくりで学校に戻りましょうなんてことはもうとても言えないと思っている。不登校について最近小学生が非常に増えており、去年の倍ぐらいになっている。中学生は大体横ばいである。小学校1、2年生の子たちは、コロナのルールが分からない中で、給食のときにしゃべってはいけない、できるだけ放課もしゃべらないようにとされると、学校におもしろさがなく、遠足だとかいろいろな行事もやらなくなってきているので、そういったちょっと楽しい部分が学校に今、なくなっている。授業は増えており、教員の多忙化の解消という意味で昔やっていた合唱がなくなったり、運動会が縮小されたりしているが、我々には何ができるのかということをもた皆さんと一緒に考えていきたいと不登校については思う。

あとコミュニティースクールについては、まだまだ住民の人たちも、どういうふうに自分たちが学校と関わったらいいいのか、ただ単にお手伝いをすればいいのか、運営側に回って何ができるのだろうか、まだ具体的に自分は何ができるかっていうのも分かっていない状態であり、学校のほうも草刈りを手伝ってもらったらいというようなことにもなってしまふ。便利屋さんで使うのではなくて、いろんな方が住んでらっしゃっているいろんな知識があるので、例えば俳句の協会の方が小学校で俳句を教えたり、絵や書道が上手な方もいらっしゃるの、

授業に入って先生と一緒に子どもを指導できるようにするなど展開としてはあるのかなというふうにも思っている。

栄中の元校長先生がいつも強調されているが、不登校については教師の励ましが絶対にいる。だから、月に1回ぐらいはやっぱり担任がフレンドひまわりに通っている子であれば、ちょっと顔出しをしたり、電話だけでもしてあげるといことをしてくださいというようなことをおっしゃっていたので校長会で何度も伝えていきたいと思っている。

支援室長 不登校のことについては、本来の形ではないのだが、通級指導において、特別支援学級に在籍するとまではいかないが、通常学級にいてグレーっぽい子どもを週に何回か担当の教員が適応指導を中心に行っているということがある。今小学校は全部あるが中学校が豊明中学校だけで、あと栄中学校と沓掛中学校が配置されていないので、今年配置してもらえるようお願いをしている。ある中学校の3年生の生徒がなかなか学校にも来られず、ちょっと問題行動も絡めたようだったが、通級指導のところに何とか通えて、先日進路も決まり合格したということで、その通級の先生にお礼が言いたいというようなケースもあった。子ども自身が発達について困っている感じがあり、学校に不適應になるという場合もあるので、通級指導教室が居場所づくりの一つの選択肢として考えていくことも必要である。

委員 学校の老朽化の件は、照明のことについては大分改善されてきており、学校からの要望は特になかったかと思うので、早めにいろいろ改善していただきありがたいと思っている。

各学校からの要望が多かったのは、プロジェクター（電子黒板）がほしいという話がどこの学校からも出ており、中には先生自身がプロジェクターを用意して使用している学校もある。二村台小学校だけでなく他の学校にも、もし本当に必要であるならきちんと整備していく必要性があると思う。

豊明中学校の配膳室に水が染み込むというような話があり、もし本当に建物の中に水が侵入しているならば本当にダメージが大きいので、早急に対応する必要があるかと思う。

豊明小学校のグラウンドの舗装について、バックネットの後ろのところの舗装がない状態で、雨の日が大変であり、車椅子の子たちは、線路沿いをずっと体育館のほうに行ってそちらから入っているので、

早期に舗装してほしいという話があった。

先ほどのプールの話があり、豊明小学校については児童クラブが学校敷地内にないことも問題だが、学校の駐車場が教員の駐車場も狭く、お客さんの駐車場もない。ただプールは、防火水槽の役割も兼ねているのか、防災との関係も考えていかないといけないのかと思う。

細かな補修だとかあるが、そこは地域の方に手伝ってもらうことも必要あるのかなと思うが、一方で学校のほうも自分たちでできることはなるだけやっていくというそういう意識もいるのかなというふうに思う。

先ほどコミュニティースクールの話があったが、地域の方々にただ手伝ってもらえばかりではなくて、自分たちが学校をどうしていくかというそういう意識をしっかりと持つのが必要なのかなというふうに思う。ただ私自身も電気工事の資格を持っているので、照明器具を変えるだとかそれぐらいはやるので、そういう何かやりたいと思ってどうしたらいいのかという人に入ってきてもらえる何かがあるといいかなと思う。

栄小学校の大規模改修について今、文科省で新しい学校の施設の在り方みたいな話が出ているようなので、探求学習などそういうことができるような施設のつくり方などその辺をちょっと研究し、改修してもらえればよいと思う。今、少人数35人学級を前倒しでやっているが、本当に35人が最適か、もう少し少ないほうがよいといった声もあり、その最適な人数も含めて、学校の教室の数とかも考えていく必要があるのかと思う。

I C Tの活用でタブレットを整備してもらってから3年ほど経つが、私の印象としては、なかなかうまく活用出来ていないと言える。まだ先生方は使われている感があるように思える。先生方がもうこのI C T機器がないと授業が出来ないというぐらいの、そういう意識を持って授業をしていくような、その意識の改革というのが要るのかなと思う。今は使わなきゃいけないねというような感じで使っているところがあるが、もう今後これがないと授業が成り立たないぐらいというような感じでやっていけるようなことを先生方が研究していけるような、仕組みが要るのかなと思う。不登校の子どももフレンドひまわりでタブレットを使って学校とつながれてよかったというようなこともありますので、I C T機器の活用の仕方というものもいろいろあるのかなと思う。今、子どもたちはタブレットの持ち帰りがどこまでできるか分からないが、図書館の学習室はたしかパソコンが使えない

ようになっているので、今後持ち帰りができるようになったときに持ち帰って学習できる場所の整備が要ると思う。

あと今後、部活が地域移行していったときに、何割かの中学生の居場所がなくなってしまうというふうに思っている。「カラット」でいくつかパソコンが使える部屋があるみたいだが、もしかしたら今後、中学生同士がタブレットを持ち込んで、お互い学び合うような場所を増やす必要があるかと思う。

市長 電子黒板のことは、教育委員会のほうでも相談を受けている状態で、極力前倒しで要望に応じたいので、国の事業に応募する形で予算を取りに行き、基本的に全ての学校でできる状態にしていきたい、これは早急にしたいと思う。

豊明中学校の配膳室については、行政経営部長は何か聞いていますか。

行政経営部長 初めて聞いたので確認する。

市長 状況がちょっと分からないので確認する。今施設管理は、教育委員会から離れている状態で市長部局のほうで管理しており、これは早急に修繕が必要な状態なのか確認する。自分たちは施設管理者として把握出来ている状態で、これはこういう原因でなっているというふうに把握出来ているのであれば、予定された計画どおりに修繕していけばいいと思うが、そうでないのだったら原因をつきとめないといけないので、それは委員のおっしゃるとおりだと思う。

豊明小学校のグラウンドの舗装は、実はグラウンドの舗装そのものではなくて、豊明小学校と沓掛小学校だけがもともとグラウンドの質が悪いという問題もある。だから大した雨でなくても、雨が降るとこの2校だけは使えなくなってしまう。あとはそもそも改善されている。この2校は修繕したいが、順番にいろいろなところの改修をやっており、トイレの洋式化や普通教室にエアコン入れることを進めて、この2校の問題を解決させたいが、グラウンドを全面的にやったほうがいいのか、豊明小学校の入り口部分はほとんどの方々が、通用口側から回って校舎のほうに向かっていることは認識しており、そこだけを先にやったほうがいいのかについても早急に考えていきたいと思っている。

プールをなくすことについては、消防部署からは、それぞれの場



所で取水場所はもう把握出来ているので、防火の関係でプールを活用することはもうほとんどないというふうに言われており、その問題は無いと思う。

それから栄小学校の研究はもちろんやっていかないといけない。少人数教育については、そもそも愛知県では小学校1・2年生は35人学級であるの学年が40人学級になっていた経緯があるが、早生まれの子たちは、やはり圧倒的にこの1・2年生が不利になるので、そういったことも含めて、やっぱり1・2年生については35人学級が落ち着いたところで、今一度検討する必要は当然ながらあると思う。全国的にも一部の自治体は35人学級ではない運営をされているところもあり、どういった形になっているか、明らかに効果が高いのかということも十分研究していきたいと思う。

タブレットのことは教育長と支援室長に回答をしていただく。

中学生の居場所づくりは、今後の課題としておっしゃるとおりである。「カラット」の学習室があるが、学習室が足りないときは、運営会社が空いている教室を学習室にして運用している。もともとターゲットは中学生と高校生であり、この4年間、毎年中学生との意見交換をしているが、図書館は午後5時に閉まってしまうので、図書館以外の学習する場所が必要だというふうにご指摘をいただき、「カラット」にそういうスペースをつくっている。ただ、「カラット」にはあるが、ほかのところにはないじゃないと言われればそれまでなので、南部公民館のところにも学習スペースをつくりたいと考えているし、そこで終わらずにこの市役所の職員の幹部全員で、公共施設で空いている部分を使えたらと思っているが典型的に空いているのは、この議場である。いつもターゲットにしているが、365日のうち24日しか使わない市で最も豪華な施設がこの議場だと思っている。どう考えてももったいない。夏休みぐらいはどうせ使わないなら、もう子どもたちに開放して好きに使ってよとそういったことも含めて、考えていきたいと思っている。居場所が多ければ多いほど、それは子どもたちにとってはプラスになるはずなので、そういうふうと考えていきたいと思う。

教育長            プロジェクター型の電子黒板の話は先ほど市長からもあったが、学校教育課長、予算についてはどうなっているのか。

学校教育課長    国からまだはっきりした話はないが、補正予算について、また

3月に前倒し等があり活用できると来年度から運用できるので、早急に進めていきたいと考えている。

教育長

国のそういった制度がうまく活用できれば来年度からやれる。今の計画だと、令和8年度以降に整備するとなっているがそれを前倒ししようと思っている。国のほうが仮に駄目だったとしても、2年前倒して6年ぐらいからやっっていこうということに、今のところなっている。ICTの使い方がまだまだじゃないかというようなことだが、自分もなかなかこういうことってこう進んでいかないのかなと思っている。今は国の支援で、国語と英語がデジタル教科書になっているが、来年度は国の支援がもし充たったら算数などのデジタル教科書を5校は国の予算でやり、残りの6校は豊明市の予算でやろうというようなことを考えており、そういったことでデジタル教科書化が進んでいけばいや応なしにICTを使っていくようになるので、もう少しそっちのほうは時間がかかるのかなと思う。ただ先生の内面的なこともあり、本当に今、講師不足で70歳超えても教壇に立ってもらっている方々がいらっしやあって、今までチョークと黒板でやっっていっしやった方も多くいるし、これは現実問題として、そういう方が使えるのかどうかというようなことも考えて、ICTを使わないと授業が出来なくなるというふうにするには、やっぱりデジタル教科書化を進めていくしかないのかなというふうに思っている。

学校教育課長 学校が問題意識を持ってもらい、やはり学校から要望を出してもらおう。当然子どもが酌み取っていかねばならないが、学校のほうで優先順位をつけてやってもらいたいということがあり、施設の改善についても、校長要望や職員組合の要望があり、そこで優先順位をつけてもらえば子どもも予算化していく。今、ICT支援員が学校を回っているが、学校によっては電源が立ち上がらないなど、そういったことの解決で使ってしまうもったいない例もあるが、学校によってはその支援員を使ってどういった授業ができるかを研修している学校もある。そういうことの情報をおもどもから流しながら、学校も問題意識を持って運営していただくということが大事じゃないかと考えている。当然子どももサポートしていくので、また委員からも何かあれば、お聞きしたいと思っている。

委員

先ほど先生の意識改革ということをお話させていただいたが、今のICTの活用も、本当に自分たちはこういうふうを活用していきたい、自分たちが自分たちで研究していく仕組みとこのか、協同の学びも同じで何かグループディスカッションだけすればいいみたいな感じのところも一部見受けられる。先生方も多忙であり何もかもとなると酷かもしれないが、やっぱり先生方が子どもたちに対してこういう教育をしていくのだという意識や、先生方がその地域に対してあるいはその子どもたちに対して、どうしていきたいのかという意識を持ってほしい。その上でスーパーバイザーの要請訪問も、来てもらって終わりではなくて、来てもらわなくても協同の学びをスパイラルアップしていけるような仕組みづくりというのだろうか、意識改革が要るのかなと思う。

学校の建物安全点検も市の担当にお任せではなくて、先生方が、自分たちが使っている学校だからと意識を持って、こういうところは危なそうだなというところを常日頃、全ての先生方が目を光らせている、ちょっと意識を持ちながら学校の中で活動していく。コーディネーター任せじゃなくて先生方が自分たちの学校に意識を持つところを、何か出来ないかなというふうに合わせて思う。

市長

全くの同感である。

教育長

今の協同の学びについて先日支援室長と話し合いをして、今のまま続けても結局イベント化してしまっただけで、終わった終わったという感じになってしまうので、そうならないようにしようということで現職教育の中で考えていくと、来年度についてはそのような形でやりたいなど。それについては今学校支援室のほうに校長のOBの方で2名指導員の先生方がいらっしゃるんで、お2人に話をし、小牧から来ていただいている方にスーパーバイザーをやってもらったが、やっぱり日常からやらないと意味がないよねということで、今、1人の先生だけがそのOBとしてスーパーバイザーでご活躍いただいているが他の指導員の先生にも、スーパーバイザーになっていただいて、来年度から教務主任会等にも入ってもらって、どういうふうに協同の学びを進めていくのか。それこそ内側から出てこないで、これは変わらないので、イベント

化だけして予算使っても本当にもう時間の無駄になってしまうというような話を支援室長と共通認識として持っている。そういったことで進めていきたいと思っている。

市長　　ふだんの施設の管理も、学校の先生方に見ていただきたいと思う。私が中学校で子どもたちと意見交換するとき、その場でいきなり話が出てくる場合がある。生徒たちは当たり前で共通認識を持っているのだけど、大人は誰も知らないというような、余りよくないのでそういうふうにしていただきたいと思う。私たちもちゃんと受け止める体制はとっていかないといけないし、お互いにそれは改善していかないといけない部分かなというふうと思う。

委員　　昨年度より、日本語指導専門員の方を置いていただいて、二つの学校の児童生徒の支援が少しずつできるようになったかなと思っている。ただ二村台小学校と豊明中学校には、外国にルーツを持つ児童生徒がたくさん在籍している。指導を必要としている子が多く、支援が追いつかない状態のようだ。今現場の先生方と情報共有しながら進めていただいているが、初期指導を終えてからの後の支援をどうするのか。学校に戻った後の学習支援も考えていく必要があるのではないかなと思っている。プラスエデュケーターや子ども日本語教室などで学習支援を希望する子どもも増えているというふうに聞いている。場所の確保や、ボランティアの確保、それらを長期的に考えていかないと、これから増える子どもたちのことを考えるとちょっと心配な気がする。

あと保育園とか幼稚園、義務教育の期間、そして卒業して成人するまで、言葉の壁にはさまれて、本来持っているであろう能力を出せずに社会人になるより、日本での生活が充実して、幸福感を感じられるようになってほしいと願っているが、人も時間もお金もかかりとても難しい問題だなというふうに思っている。これは、外国にルーツを持つ児童生徒だけの問題ではなく、社会全体で考えていく必要があるのかなというふうに思っている。今後ともご理解とご支援をお願いしたい。

市長　　その初期指導を終えた後の指導が必要になる子どもが出てくることは間違いないと考えている。その部分を改善することはプ

ラスエデュケートと十分議論しないといけないし、人員として、プラスエデュケートでまださらにプラスアルファしてやれるということであれば、自分たちもやっていきたいというふうに思っている。やれる子もいる、初期指導を終えて自分でも十分独立できるとか自立できる子たちもいるのだけれども、そうでもない方もいることも間違いないので、それはどの言語でも一緒に自分たちが英語を学ぶとかほかの中国語を学んだときも同じだと思うけれども、そのままやれる人もいるし、やっぱりフォローが必要な人たちもいるしそれは、彼らが日本語を学ぶときも同じだと思うので、そういった形でしていきたい。

学習支援の部分についても、自分たちだけでやり切るべきではなく、いろんな方々を巻き込んで、これはやっていく必要があるのかなと。実は豊明団地の自治会が豊明団地にあるけやきテラスで、藤田医科大学の学生に日本語の家庭教師みたいなことをやらせている。学生からすると何か頼まれてやったので、当たり前に行っていますみたいな形で別にプレッシャーでも何でもなく、楽しくやっていらっしゃるようで、そういった形もあるなど。それぞれやれる能力があるのだけれども、やる表現の仕方が伝わらないというようなそういった場合があると思うので、そういった資源はいろんなところで十分に活用できたらと思う。今まで話に出てきたフレンドひまわりに行かないといけないとか、何とかに行かないといけないとかいう形じゃなくて、どこでもできるような状態にはしていきたいと思うし、それはやっぱりいろいろな人を巻き込まないとなかなか難しいのかなと思う。国際交流協会だけに任せるだとか、プラスエデュケートだけに任せるという形じゃなくて、みんな共生社会としてやっていかないと自分たちも幸せになれないよということを認識していただく必要が自分たち豊明市民全員にあるのかなというふうに思っている。

#### 委員

他の委員と豊明中学校で日本語支援をやっているが、言葉というよりは心のフォローみたいなのも必要な子たちもいて悩んでいる。やっぱり日本語ではなかなかその思いが伝わらないことを感じる。受験だったり試験があったりいろんなことを考えても、精神的に参っている子たちがいることや、分かってはいるのだけれど自己表現が出来なかったりしてすごく困っている感のある子どもたちをどういうふうにしたらいいのか。それはもちろんその外

国籍だけではなく、日本の発達障害の子やいろいろな方も一緒だ  
と思うが、どうやったらその子たちの気持ちを酌み取ってあげら  
れるのかなというふうについていつも思っていて、それも学校の先生方  
もすごく悩んでみえることだが、なかなか答えが見つからず支援  
が終わった後にどうしたらいいのだろうかと考えてしまう。私たち  
が考えて全て解決するものではないのだが、気持ちを酌み取っ  
てあげられるいい何かがあるといいなというふうにいる状態  
である。

市長           それについては根が深く、子どもたちだけの問題でもなくなっ  
てくる。日本社会は日本語を話すことが全部の前提になってお  
り、例えば高校入試も全部日本語になっている。世界が全部そう  
いう形ではなくて、アメリカ合衆国みたいにメキシコからの移民  
が圧倒的に多いところは、間（あいだ）の学校があるわけで、日  
本にもそういった形の学校が必要なかもしれない。だからこれ  
まで本当に何か日本語を押しつけてきたけれども、日本語じゃな  
くても能力を発揮できるような学校があれば、その子たちは無理  
に日本語を学ばなくても、そこに行けば自分の能力的なエンジニア  
としてどのぐらいなのか、いろいろな組織をまとめる能力はど  
のぐらいなのかなどどんな能力なのか分からないが、そういった  
能力が開発されれば、その子たちはそれで自信が持てる状態にな  
る。日本という国は日本語を学ぶことを全ての前提として全ての  
社会が成り立っているので、それを改善しないとなかなか解決し  
ないと感じがする。

委員           個々の能力もあり、例えば1年しか経っていなくても漢字もか  
けるといふ日本語の能力のある子もいるが、大多数の子はちょっ  
とした言葉が分からないだけで問題の意味が分からない。何かそ  
ういうのをすぐにできることではないのだけれど、これから先、  
真剣に考えていかないときと同じようなことになるかと思う。

市長           アメリカ合衆国の大学院に留学したことがあり、試験は英語で  
全部問題も書いてあるが、そんなに大して英語が出来なくても問  
題が解ける状態になっている。問題文が迷うことはないぐらいのシ  
ンプルな問題になっている。日本の高校も大学も、日本人でも問  
題文そのものを読み解くのが難しいような問題文になっているの

で、問題をもともと母国語でない子たちが解くのはかなり酷だろうと思う。だがこれから国際社会ということを考えると、そういったことを変えるべきだと思う。今、何かの答えは出せないが、私は本来的には改善すべきだと思っている。日本はあらゆるところで試験そのものがふり落とす試験になっており、日本の試験というのは能力を正しく評価する試験になっておらず、どうやってふるい落とし、どうやって差をつけるかという試験の問題になっているからそういった難しい問題文になっているのかと自分自身としては個人的にそう思う。さっきの初期指導の後の問題はずっとこの数年問題になっており、プラスエデュケートの代表からも指摘を受けている問題なので、改善できる部分については改善したいと思っている。

教育長

プラスエデュケートの代表も本当はもう少し長く教えたいと思っている。本当は半年のところを今3か月ぐらいで卒業させてしまっているから、そういった制度的に、半年とかもっとじっくりとやりたい子がいっぱいいるという話はある。可児市や美濃加茂市など外国籍の子が多いところは、やっぱりまずは初期指導をやって、学校へ返す。学校の中にも国際クラスがあって、そこへ行って、そこから普通学級に行くという3段階方式が多いのだが、なかなか豊明市は、プラスエデュケートで初期指導と、もうちょっと後の部分もやってもらってクラスに行ってもらっているのので、もう少し何かさせてもらえるように出来たらとは思っている。その辺でプラスエデュケートのほうも人員がない状況であり、なかなか講師養成にも時間がかかるしお金もかかる。入札なんかで契約するとき、講師養成をしてももらったのに入札で落ちなかったとなると養成したことが無駄になってしまうというような、そのような経済上というのか運営上のことで、代表もなかなか悩んでいるところがある。

自治体で絶対に引き受けるというようなこともなかなかやりにくいものであり、そういうジレンマもあるが、実情としては委員がおっしゃったようなことであると思う。愛知県が2025年から中高一貫校を実施予定だが、その中の一つに豊田市にある衣台高校で一貫で外国の子を受け入れて、入試なしで中学校から高校へ行けるというようなことを取り組むように今なっている。先ほど言われた入試の問題が分からなくてということとは、その学校へ行

けば中学校から高校へ自動的に行けるようにはなるのだが、まずは試行ということで実施される予定である。

またブラジルとかベトナムとかいろんな国の子どもたちがいるが、国によって小学校1年で習うことと2年で習うことがまちまちで違うことがある。以前委員と一緒に愛教大の講義を受けたときに、TOEICの問題を作るのがすごく難しいと講師が言っていた。小中学生が受けるときに、習っていないことを出してはいけないので、どういう問題を出すと世界共通なのだろう考えると言っていたが、そんなようなこともあるのかなとは思う。

教育部長

この前、日本語指導専門員との面接で人手不足の話をしたが、日本語教育を学びたいという非常に前向きな大学生はたくさんいるが、実際に現場に入って、大人を相手にする日本語教育であれば、相手は大人なのでこちらの意を酌んである程度分かってくるが、プラスエデュケートみたいに子どもが相手だとやっぱり子どもなので、やりたくなくてやめたってなってしまう、そういった子でもやるようにするのはやっぱり専門の教育、学校の先生みたいに、ある程度経験を積んだ人じゃないと難しい。だからプラスエデュケートに入っても、やめていく人が非常に多い。結局挫折してしまって私は出来ない。日本語指導専門員が言うには、本来であれば学校の先生を少し経験して、子どもとの接し方だとか距離のとり方などそういうのを経験した人が、日本語教育を勉強してどうやって勉強を受けさせるかという部分がないと、素人が大学で日本語教育勉強してきましたという人がいきなり現場では、なかなかその子どもを相手に日本語教育するのは難しい。そういった人材の育成というのは本当に非常に難しいと、思い通りにいっていないと言っていた。だから、お金を出してあと2パターンお願いしますって言っても、やってもらえるような人材がなかなかいないので、育成にも時間かかるし、そこが結構困っていると言っていた。

委員

あと日本語指導専門員が全部の小中学校のコーディネートをされているが、実際1人でも大丈夫なのだろうか。先生をサポートする人や、例えば幾つかの学校の担当がいて、日本語指導専門員がいて、何人かで外国にルーツを持つ子供たちの対応を何人かでやっていったほうがいいのかと常々思っていて、お1人でやる



ということは、それだけその労力も時間もかかるし、多分頭を休めることがないのではないかというふうにいつも思う。何人かでやると、違う視点からも見られるので、やっぱりいろんなアイデアを出すためには、もう少しそういう人がいたほうが深くなるのかなというふうに思う。

教育部長

日本語指導専門員との話の中で、やはり日本語教育というのは、ただ単に日本語を教えるだけではなくて、保護者と学校の問題とか思春期の問題とかいろんなことがあって、それが重圧になって、本人はそんなこと思っていないなくてもやっぱりどんどんどん何とかしなきゃいけないなと思ってしまうことがあると聞いた。なかなか家庭の問題とか、そういう問題というのは学校でも何とも出来ないし、そういうものを抱えているということで、専門員自身も相当多分負担になっているのではないかと私も感じた。そのことはもう教育長にお伝えし、来年度以降、半日でもいつでもいいので、専門員をサポートして、そういう能力を持ったやる気のある人で誰かいないかということ聞いており、予算づけのほうをお願いして、一応市長にも話をさせていただいて、予算は認めてもらっている。それで今よりはいい方向に改善するかなというふうに思っている。専門員も手いっぱいなので、行きたくても行けないというケースがやはり頻繁にあると言っていた。体一つしかないので、それをサポートしてもらうような人を、来年度確保したので少しは軽減になるかなと思う。

## (2) その他

市長

では取りあえず各委員の皆様からご意見いただきましたが、予定されているもの以外でも、何かご意見がありましたらご自由にどうぞ。

委員

豊明高校は市外から通うとなると、駅に自転車を置いて通っている子もいる。理想論だと思うが、豊明高校の生徒も使えて、そしてフレンドひまわりに通う子も使えるような勅使まで行くようなルートのバスがあるとよい。名鉄バスに委託すると採算がとれないということがあるかもしれないが、何とかひまわりバスみたいな形で通学の時間帯だけでも。公共交通機関を豊明市として、通学保障の足として、予算をつけてくれないかなと思う。

もう一つは先ほど外国籍の子の話で、僕はやっぱり悩まれているのは、心の居場所というか、言葉の壁もそうだけれども、結局精神というか、自分が外国に行ってもこの不安とか、それから悩みを相談するって言っても日本語では出来ないわけで言語化が難しい。豊明団地の自治会でやっているようなところで、僕が今考えているのは、本当に生活苦で困っているところに対して今社協と具体的に施設をつくって子ども食堂をやろうかなと考えている。実は日進市とか昭和区（名古屋市）で子ども食堂をやっている人と交流があったときに、そこが、食を通じての心の居場所になって、不登校の子とか、それからお風呂も入れないとかいうことで何ていうかいじめにあっているみたいな子が、安心してくれると。何か食を通じてだけれど、子ども食堂は、さっきの外国籍の子があれば何か、さっきの団地ではないが学生と何か遊ぶようなことを通じて、言葉を教えるとかそういうのではなくて、ここに来れば自分が安心していられるというような場所を何とかそこをつくってあげられないか。まさか議場を使えとかそういうのは言っていないが、何かそういう場所があるといいのではないかなと。つつい私たちは受験のためにとか、それからすぐ学力をつけるとかそういう以前に、あなたはあなたのままで生きていいのだよ、安心してねっていうようなメッセージの場所ができるといいかなと思った。

今から言うのも理想だけれど、スウェーデンの退職した校長が講演で話した内容で、そのときのインクルーシブ教育について僕がこれはすごいかなと思ったのは、いろんな障害のある子、例えば視覚障害、聴覚障害、それから身体障害、みんな同じところで勉強しているというのを聞いて、それは無理だろうと思ったら、全部、例えば聴覚障害だったら、筆記のボランティアが横についている。それから、目が見えない子どもにはこの音声であるとか、それぞれハンディキャップをフォローする人がついてる。日本でどうですかという質問が出たが、とてもじゃないけどお金の問題がね、マン・ツー・マンでつくわけだから。でもそう考えると、この外国語が出来ない子がいるところに、通訳みたいな人がいたら学力的には安心できる。お金の使い方だと思うけれど。さっき聞いた日本語指導専門員や、プラスエデュケートなどもシステムではなくて、そういう組み合わせた感じで出来ないか。みんながちょっとでも安心できるような場所をつくれたらどうか

というのは、僕は理想で思ったがどうだろうか。

市長

バスについて、豊明高校の前の校長から実は要望を受けていた。ただ実は難しいことがあり、豊明高校の授業開始時間には、実はすでに名鉄バスがちょうどいい時間帯で前後駅から、東郷町のほうへ抜けるバスが走っている。しかし帰る時間帯がバラバラであり、結局は本当の通学バスを、豊明市のほうで用意しないとイケなくなる。そういった問題があるからなかなか予算的には難しい。豊明高校の生徒の中で、今豊明市の子たちで豊明高校に通っている子は、1割ぐらいしかいらっしやらない。一時は強化したのだからかなりの子たちが通っているが、それで豊明高校のために税金を使うべきなのかという議論がどうしても生じるのと、実は星城高校も、駅から微妙に離れており20分弱歩く。豊明市のほうでもバスをとというような要望は受けたが、こちらはできないとしている。では、豊明高校は認めて何で星城高校は駄目なのかという話にもなるため、難しい状態で今に至っている。検討したことがないわけではない。実際に朝のそのバスに自分も乗ったことがあるが、豊明高校のほうで利用しているのは2人ぐらい。恐らくその子は自転車に来てないため、多分帰りは、二村台7丁目というところぐらいまで、20分ぐらい歩いて帰っているのだろうか。そこからは10分に1本、藤田医科大学からのバスが走るものだからと、自分は推測したが。その朝のバスに乗っていらっしやる方は、大体2人か3人ぐらいしか乗っていらっしやらない。やはり帰りの時間帯は高校生の場合には、なかなか決まった時間帯にならないのかなと思う。

子ども食堂のほうは、自分としても強化し、豊明市の場合には、社会福祉協議会が先に進めた状態で補助している状態になっているけれども、来年度この補助を、この社会福祉協議会がやっている事業に上乗せして市のほうで補助する状態にしていきたいと思っている。子ども食堂のことについては実はもう一つ、市長である自分として議論してきたことがある。老人クラブの今の会長の前の会長がたまたま、旧双峰小学校今の二村台小学校の学区にいらっしやった方がやっていた時代があり、あそこは二村会館って棟の建物があるのでそこで食べ物を提供できないかという話をした。朝食を食べない子が二村台小学校の場合は、大分いるようなので。ただ、ちゃんとした調理を何らかの形でやってし

まうと、保健所に全員検便を出さないといけないものだから、あとやっぱり負担も重いとのことで、そこまでも調べてもらった。その方に、牛乳とパンをぽんと出す。要するに製品を出す分には関係ないので、冷蔵庫に入れた牛乳とかパンや、そういったものをぽんと用意して、あとはどうぞ好きに食べてもらい、管理することだけ老人クラブにお願いすることであればいけるだろうと。そういうところの議論までやったのだがそれでコロナ禍になってしまった。その状況でお年寄りにそれをさせるとやっぱりなかなか難しいので、一旦止めましようとなり、止まったままになっている。ただそれは、既に老人クラブの中で、かなり議論をしてももらった状態で、この範囲内でやれるっていう返答をもらったところでちょうど、コロナ禍になってしまった。つまり3年前の12月から1月に問題が生じ、やれるから予算を付けようとなっていたところでこのコロナの問題になってしまった。そういったことも含めて、食事はコミュニケーションのツールとしても、いろんなエネルギーの源にもなり、食事をとらない状態で勉強してもはかどらないので、そういった形でこの子ども食堂的なものをと。さらに言うと自分としては、子どもターゲットだけじゃなくて、いろんな方々にも。JAのケヤキの会という、これも強力な女性陣がいらっしやって、それがゆたか台のほうにある元の青い鳥保育園のところで、ずっと週に3回運営されているけれども、そこがやはり高齢者の方々の居場所になっている。そういった場所が幾つかにあると、高齢者の方々の誰とも何か交流してない、何かちょっと取り残されている方々の居場所になっている。そのケヤキの会の青い鳥ケヤキの森という食堂は、週に1回か2回来られる方々にとってはそれが楽しみで、毎日を過ごされているみたいな方がいらっしやる。子どもだけではなくていろんな方々にとっての居場所になるような場所をつくっていく必要があるというふうに思っている。当然ながら、一部は南委員にご協力いただかないといけないところが、間違いなく生じてくるので、積極的に提案をいただきたい。

委員

先ほど中学生の居場所づくりと言ったのだが、小学生というか子どもたちの遊び場づくりとして、市長はどのようにお考えになっているのか。それから何かこう、市民が元気に過ごせるようなまち、まちづくりと言うのか、それをやっていかないとなかなか

こう全体が改善しないのかなと思うのだが、そういう市民が元気になる取り組みとしてどんなことをお考えなのかをお聞きしたい。

市長

後者のほうから先に。豊明市の場合には、豊明モデルという地域包括ケアのモデルがあり、それは厚生労働省が全国1,730幾つある自治体のトップバッターとして、とりわけモデルを推奨した状態でやっている。これは圧倒的に市民の方々が協力いただいた状態で、まちかど運動教室という、集会所を使った運動教室をしたり、健康マージャンをしたりしていただいていることがベースになり、それをベースにおたがいさまセンターちゃっとという仕組みを新たに導入して、生活に困っていらっしゃる方に30分250円でサポーターが駆けつけ、それをマッチングする方々がいらっしゃる。するとその方々は生活に困らない状態になり、生活に困らないものだから、自分で自立した生活を送れるので、介護状態も遅らせることができるというそういった仕組みでやっているわけだが、そういったこともっと進めたいと思っている。これは高齢者の方々に向けた、地域包括ケアの取り組みが豊明モデルだが、全世代型に広げたいというのが、最終的な豊明の向かうべき姿というふうに、これは職員全体として共通認識として持たせている。自分は、幸せというのは自己肯定感であること。それから、自分の居場所がはっきり分かっていること、誰かに自分の周囲の方々に、自分が必要とされている空間というか、いても大丈夫な空間、そういった空間があることが幸せにつながると思うので、そういったこと、自分の必要とされている場所をつくっていく。どんどん出られる方もいらっしゃる。もう20年間もずっとやっていたらいる長山委員みたいな方もいらっしゃる。でもそうでもない方々が圧倒的多数派である。もう一步が踏み出せない方々、そういった方々が気軽に踏み出せるような、おたがいさまセンターちゃっとの仕組みはまさにそういう仕組みで運営されていると思うのだが、そういった仕組みがもっと広く、運営できるようにしていくと、それぞれの方々の居場所があって、常に誰かに必要とされている自分がいるというようなそういった認識ができるのかなと思う。大規模な遊戯場だとか、ショッピングセンターについては自分もともとそういったものを運営している会社にいたものだから、そういったものが幸せには全く必要はないと

いうふうに認識している。実際にきたところで、別にそれによって生活が劇的に改善することはないと思う。交通渋滞を起こすだけで、最終的にはとても迷惑な施設になっていくだけである。出来たときの瞬間だけうれしいだけの施設を自分としても誘致もしていないし、やるつもりもない。

子どもの遊び場。これは本当におっしゃるとおり、公園の整備を順番に強化しようとしている。手始めとして三崎水辺公園が中心地にあるので、ここの利用が圧倒的に大きい。三崎水辺公園の改善計画についてはもう計画が出来た状態で、3年以内に全体として改善される状態になる。前も中学生が公園にバスケットゴールが欲しいと言っていたのだが、豊明市はベッドタウンになっていて、公園が騒がしいと間違いなく住宅地ともめる。そういったことが過去にもあった。住宅地が隣接したところに大体公園があるので、そういったところの兼ね合いの下、公園が子どもたちにとってより快適な状態にしていければなあというふうに思う。公園はずっと開放している空間になっているので、最も使い勝手のいい空間なのかなと。誰か大人が監視している状態で、大人のところを通り抜けていけないといけない空間ではなくて、自分たちが勝手に集まって勝手に遊べる空間になっているものだから。その一部として、木の植え込みが多過ぎる。市役所は年間で千数百万かけて公園を順番に1園改善していつている。見通しの良い状態にして犯罪が起きないようにしている。トイレが結構な数、小さな公園でもトイレが併設されたりするが、やはりトイレも犯罪の温床になりがちなので、トイレももう外してほしいという地域要望があり、なくしてほしいという形になっていつている。そういった形で、子どもたちが広い空間で、きちんと遊具もあってという形で遊べるような空間にしていきたいと思う。

委員           自分たちが働いて稼げるというような、自営業が元気なほうがいいのか分からないが、そういう働き場所というのか、そういう意味でちょっとお聞きしたかった。

市長           働く場所としては取りあえず工場団地が3年以内に出来上がる状態になっているので、それで一定程度、市内で働かれる方を増やしていく。市外で働かれている方が多い町になっているので、一定程度、市内で働ける場所を増やしていきたいと、若い人口を

一定程度増やさないと。商業施設についても、大きな商業施設は要らないと思うけれども、一定程度の魅力あるいろんな店舗だとかそういったものは必要であることも間違いないので、そういった形に循環としていきたいなというふうに思っている。

委員            スポーツや文化、その生涯学習関連など、図書館の在り方とかはこの先どのように考えていらっしゃいますか。

市長            図書館については福祉体育館も文化会館もそうだが、共通していることは、毎日利用される、何か固定客みたいな状態になっていて、いろんな人たちが自由に使える空間になっていないのでは思う。そこを改善していかないといけないのが、豊明市の課題かと。ちょうどこの会議の前に、新しい文化会館の指定管理者の社長さんが来られたが、そのことをお願いした。そのことを、向こうの事業者としても認識されていた。福祉体育館についても大幅改修を予定している状態になっているので、今の施設を維持するだけではなくて、ちょうどこの際、大幅改修することによって、あそこはちょっと変わった施設で福祉施設が併存されている。それぞれが独立した児童館の空間、老人クラブが主に使う老人センター、体育館部分、この三つが、それぞれが機能し合うような状態にしないと空間としての利用価値が下がってしまっているのので、そこを改善していきたいなというふうに思う。図書館はそもそもさっきの学校じゃないけれども、本が古くなっているのので、重点的に本を新しくして、魅力ある本がたくさん並んでいる状態にしていきたい。図書館の職員も、最近はいろんな形で工夫している状態で新しいイベントもやっているし、自分たちが紹介したい本も積極的に紹介している状態になっているので、そういった意味では職員の気持ちは高まっているのだけれども、予算がつかないものだから自分たちが推薦したい魅力ある本がずらっと並べられないという、そういった問題になっている。予算をちゃんとかけた状態で、先に南部公民館が改修され全面刷新させてないといけないので、それをやるとこの中央部にある図書館の本の内容も充実させたものにしたいなと思っている。他に何かありますか。

委員            先ほど、他の委員が言われたように日本語指導専門員が今、受験期で豊明中の3年生の外国籍のルーツの子たちの受験状況とか

を全部把握をして、1人ずつと話をしているのを見て、でも沓掛中だったか突然市外からベトナムの生徒が1人ぼんところれて、その子をどう対応するのっていう電話をもらって駆けつけるという姿を見ていたので、すごく心配になった。しかし教育部長から人員が増えるよって言われたので、よかったと今ちょうど思っていた。本当にやっぱり1人で抱えるというのはとてもつらい仕事だなというのを目の当たりにしていたので、そこは人員が増えるということでよかったなと思っている。

別件だがコミュニティースクールにて、先日会議に行ったときに保護者から、今子どもたちがコロナでマスクが外せなくなってきており、そのことを不安に感じていると。保護者が写真を撮るから今は外していいよというのすら子どもたちは外せない。それに対して、ちょっと不安だなと思っている保護者はたくさんいらっしゃる。学校の授業でも多分体育の授業とかは外す。これは先日持久走大会で、割と教員、先生方は外しなさいよと話して下さってはいるが、なかなかいろんな考えの方がいる中で保護者としてマスクを外すということも大事だよという指導を学校でしてくださいとは言いつらい。今後のコロナにどうやって対応していくのかということが、どのウィズコロナが正しいのかということをちょっと不安に思っているいらっしゃるお声は聞いてきたので、そこはお答えしかねる部分はあったのだが、学校としてどういうふうにもまず対応していくのかということは少し不安なお声を聞きましたというのをお伝えしておこうかと。

市長

先に外国人のことで南委員からの質問のときに、答えていないことがあったのでお答えします。豊明市はベトナムに由来のある子たちのほうがブラジルに由来のある子たちよりも多くなっている。しかしこのベトナム語の通訳そのものがない。そもそもベトナムから日本へやってきて長く日本に住んでいらっしゃる方が少ないので、通訳が足りてないという問題がある状態である。だから解決しようがないというのか、そもそもいない。うちの市にいないだけではなくて、愛知県全体日本全体にベトナム語の通訳の方がいらっしゃらないという、これをどういうふうに改善していくのかというのは、結構重い課題としてある。ベトナムの子たちが減る様子もない状態になっているので、豊明市の場合にはベトナムの方々を積極的採用している会社が豊明市内も市の



周辺にも多くある状態になっているため、問題を解決していかないといけないというふうに思う。

今のマスクの問題は、深刻で重要な指摘である。特に思春期にちょうど当たっている子たちには。

委員 思春期だけでなく、小さい頃からマスクをしているちっちゃい子たちももう外すことが普通ではないと思っている。小学校低学年の子たちも幼稚園の頃からずっとマスクをつけさせられているので外すことが変だと思っている。全体的な問題になっていませんかというお声が保護者からあった。

市長 思春期のだけの問題ではないのですね。見られたくないっていう意識がどうしても生じる年頃というか、場面があると思う。そこでずっと定着してしまうとそれは結構深刻かなと思う。やりたくないというかそういったことが、低学年までなると本当に全体として、真剣に議論しないといけない。もう3年続いている状態で、来年度どこかで解決されるかという、多分今の日本の社会の感じからするとマスクは外れないと思う。今日幹部会で職員は、職務執務中マスクを絶対外すなど、自分は指示しましたから。市役所は運営をずっと続けたいといけないものだから、だから感染を最小限に抑えないといけない。ということはマスクを外さないでずっと仕事するように。それが大人の判断になっているのだから子どもたちも、じゃどうしたらいいの、になってしまう。確かに。

教育長 給食のときにね、しゃべってもいいよと今文科省からも通知がきているが、それも市内の学校に流したけれど、その結果というのは自分もまだ承知していないが、みんなマスクをとってしゃべっているとはとても思えない。その辺り支援室長、何か把握されているか。

支援室長 私も特にどういう状況かというのは見てないが、ただいま受験のタイミングであることや、学級閉鎖だということも出ているので、やっぱり文科省の指針に、それに今は従わざるを得ない状況かなというふうに思っている。早くインフルエンザと同じぐらいの扱いになってくるといいのかなと思うが、ちょっと今は難し

い。実際体育の授業ではもう外れている状態になっている。ただそこは自分の判断になるので外さない子が残ってしまう。

市 長        それこそ鼻が何かあまりよくない状態だとかだと、以前もマスクしたまま体育の授業にでるという場合はあつただろう。それがNGにならないものだから難しい。確かに積極的にどっかでまず外す場面をつくらないと。

教育部長     私も、給食の時間を、年末にたまたま見たが三崎小学校で全然誰1人しゃべらない。結局、向きが普通の学習体系で、グループみたいな感じではないから、学校の先生も、なかなかこう、喋っていいよ、もっと喋れなんていうことを言い出しにくいのだと思う。いろんな保護者の方があるので、そういうことを嫌がる人はやっぱりいるはずかと。なので、私も行ってびっくりしたが誰1人話をせずに給食中も黙々と食べる。それを校長に聞いたら、いやもう全然変わってない。一応そういう通知が出ているが全然昔と一緒にだと言っていた。

市 長        よくないですね。食事の時間が栄養をとるためだけの時間帯になっている。

委 員        先ほどの、ベトナム語の通訳がいなくてということをおっしゃっていたが、例えば市のほうで採用するとしたときに、それは短期の雇用になるのか、長期的に雇用になるのかということでもある程度その生活の保障がないと、アルバイト的なことだとなかなか通訳も集まらないと思う。あと通訳するのに必要なことが、どれぐらいのレベルだったらいいいのかということも気になる。例えば、簡単な日本語との通訳でいいのか、プロ的でないといけないのか。

市 長        基準は度合いによってケースによって違うのかなと思う。民間側でからたけ保育園というところは、認可保育園で、通訳を入れてほしいという要望が市側に来て、来年度から一定程度入るのだが、今現在も必要とされている。たくさんベトナムの子たちがいる。保護者の説明で、ベトナムの通訳がいる状態で、今は保護者のお1人、一定程度日本語ができる方がいらっしゃって、その方

に何かお願いをしているという状態になっているらしい。その程度の場合で済むのと、一定程度もっと込み入った市のほうのいろんな手続、それこそ生活保護などそういった形になると、生活の状況を全部ヒアリングしないと手当を出せないものだから、それぞれでレベルが違うと思う。ベトナム通訳でこういった形でいらっしゃるのか。

学校教育課長 市のほうで2人ほど今通訳を雇っている。最初は、やはり保護者の説明も出来ないかもしれないから日本の制度を知って説明できるようにということで通訳ではなくて、学習相談員として、雇っている。それぐらいのレベルの人はたまたま見つかったので、もう1人はその人に紹介していただいて雇用している。委員が言われるように永年の雇用ではないため、会計年度職員としてできるだけ長くはお願いするが、1年契約という形になってしまう。そういった形で今、市のほうは学習相談員として通訳を入れている。

委員 短期だとしても、話せる人も少しずつ増えて、いろいろと書いているのを見ていると私たちがびっくりするようぐらい、いろんなことを理解してやってくれている人もいるので、気かけながらもしくはそういう採用が必要な場合は、またちょっと頭に入れておきたいなと思っている。

委員 何年か前にも申し上げたように大学生でベトナムの学生さんが何人か行って、今ちょっとコロナで少ないけれど、その子たちはちゃんと日本語をしっかりと勉強して大学に入ってくるものだから、別に日本語の会話で全然問題なく、それで研究もちゃんと出来るし、現に日本の会社に入っている。そうですね、そういう子たちが深夜にコンビニバイトするぐらいだったら何かそういうところで支援できるようなアルバイトも出来たらいいのかなというふうには思ったこともある。

市長 なるほど分かりました。からたけ保育園の園長先生からのご指摘で、役所のほうでも一定程度不足感があつたのだが、市の公共的な事業を一部担っている民間事業者側でもその問題が生じることが認識できる状態になったので、一定程度ネットワーク

があれば望ましい状態になるので、また委員にはちよつとご協力を  
をお願いする場面があると思う。

委員 去年からたけ保育園にお勤めの方と会う機会があつて、そのと  
きにベトナムの子たちの中で、おなかが痛いということも言えず  
急にもどしてしまったりするので、誰か通訳がないかなという  
話をしたのだが、それはもう解決したということによいか。

市長 はい。その方向で。そのほかよろしいですか。  
本日は本当にたくさんの議論いただきましてありがとうございます  
ました。それぞれのですね、宿題になっている部分もありますの  
で、十分検討も続けていきたいというふうに思います。それでは  
以上をもちまして本日の総合教育会議を終了させていただきます  
す。